

ゲノミクスが生命科学に大きな影響を与えるに違いないと信じられてきた一方で、免疫学研究者の多くの方々にその威力を十分に活用していただいているとは思えません。その一つの理由は、ゲノミクスのアプローチを可能にするための物質的、情動的基盤整備が大きく遅れていたからだと思います。この問題を解決するための第一歩として、代表的な免疫関連細胞の標準的な状態（無刺激、もしくはごく一般的な刺激後）でのmRNAプロファイル、たんぱく質プロファイル情報を閲覧、解析していただけるデータベースを開発、公開いたしました（URL, <http://refdic.rcai.riken.jp>）。

mRNA とたんぱく質の両者の量的情報を統合化したデータベース自体世界的にも珍しいものです。ぜひ我が国の免疫学研究者の方々にご利用いただき、免疫ゲノミクスの発展のためにご批判をいただければと考えています。

小原 収

免疫ゲノミクス研究グループ

理化学研究所 免疫・アレルギー科学総合研究センター